

地域と大学を結ぶ広報誌



城西

Vol. 19
2016.12

ニュース

第49回高麗祭

未来へつながる 新たな幕開け

 城西大学
 城西短期大学

高麗川「遊歩道整備」おひろめ会
右岸の約700m区間を整備
安倍昭恵氏講演会開催
「女性活躍社会に向けて」

2016.
11.3~11.5

第49回高麗祭

未来へつながる 新たな幕開け ～今年の高麗祭びっくりぽんや～

目次

- 02 [ニュース]
第49回 高麗祭
未来へつながる新たな幕開け
- 04 [ニュース]
高麗川「遊歩道整備」おひろめ会
右岸の約700区間を整備
安倍昭恵氏講演会
「女性活躍社会に向けて」
- 05 [ニュース]
チカダ賞記念国際シンポジウム
「生命の尊厳を表現すること」
青柳所長特別講演会
「自然・人間そして科学技術」
- 06 [ニュース][お知らせ]
地域活性化シンポジウム
「地域経済の活性化について」
ハラル認定化粧品発売
自然派化粧品「メラティ」
企画展
「水田三喜男コレクション—幕末・近代の書」
日本語スピーチコンテスト
- 07 [シリーズ]先輩訪問
四日市印刷工業 代表取締役社長 山口史高さん
- 08 [シリーズ]学生互版ワイド
学内外で活躍する城西人たち
- 10 [図書館だより]
- 11 [エリア紹介]
坂戸市 坂戸市イメージキャラクター決定
鶴ヶ島市 鶴ヶ島から全国へ
～鶴ヶ島市ふるさと納税の取り組み～
東武線沿線情報
「池袋東武グルメきっぷ」を発売

題字：創立者 水田三喜男 先生

今年で49回目を数える「高麗祭」は、木々が色づき始めた11月3、4、5の3日間にわたって華やかに開かれました。新しい半世紀に踏み出した今年にふさわしいテーマ「未来へつながる新たな幕開け」の下、同窓会や後援会の方々、地域のみなさんをはじめ、学生、教職員らでにぎわいました。



本学の一大イベント、第49回「高麗祭」が11月3日から5日まで開かれました。今年のテーマは昨年の創立50周年を経て、「未来へつながる新たな幕開け ～今年の高麗祭びっくりぽんや～」でした。

11月3日、清光ホールで行われた開祭式で、町田豪斗実行委員長は「昨年、城西大学は50周年を迎え、高麗祭で記念式典もあり、大いに盛り上がりました。今年の高麗祭は昨年に負けないよう、次なる節目の年に向けて新たな一歩を踏み出そうという気持ちを込めてテーマが出来上がりました」と説明。また、今春まで放映されたNHK朝の連続テレビ小説のヒロインの台詞から取ったというサブテーマに触れ、「びっくりするような様々な企画を用意することで付けました。来場していただく全ての皆様、そして参加している全団体の皆様が大いに楽しんでいただければ幸いです」と述べました。



挨拶する町田豪斗実行委員長

樹木が色づき始め、秋晴れの好天に恵まれた期間中、タレントのDaiGoさんの講演会や三遊亭王楽さんらの「城西寄席」、ぺこ&りゅうちえるさんによるトークショーのほか、全学応援団・チアリーダー部、空手道部などによる演武、ヒーローショー、ダンスサークルによるパフォーマンスなど多彩な催しが展開されました。また、教室では文化系サークルなどによる発表会もありました。

11月3日には、第2食堂棟で父母後援会と同窓会による人気の物産展も開かれ、多くに来場者でにぎわいました。メインストリートと17号館前の各種の露店にも地域の方々の列が出来ました。

今年の【高麗祭大賞】には、「素晴らしいパフォーマンスでステージ企画を盛り上げ、観客を魅了した」としてダンスサークル「SHOE LASE」が輝きました。その他の各賞は次の通り。

【理事長賞】

図書館ビブリオバトル
(図書館学生アドバイザー)

【学長賞】

吹奏楽部

【優秀賞】

軽音楽研究会

【企画賞】

石井ゼミナール

【学生部長賞】

全学応援団・チアリーダー部



ニュース

高麗川「遊歩道整備」おひろめ会 2016.11.4

右岸の約700m区間を整備

本学の「高麗川プロジェクト」が発端

本学の「高麗川プロジェクト」が発端となった坂戸市や埼玉県などの「高麗川 川のまるごと再生プロジェクト」の高麗川右岸の遊歩道整備が終了。2016年11月4日、おひろめ会が開かれました。

おひろめ会には、本学のプロジェクトメンバーや「かわガール」、女子ソフトボール部、準硬式野球部、ラクロス部の部員たちをはじめ、地域の方々ら約400人が参加。坂戸市の石川清市長らの挨拶に続き、本学卒業生の木下高志県議らが来賓挨拶をしました。木下県議は、荒れた河川敷をきれいにしたいという一人の学生の思いからプロジェクトが発端し、2012年8月の事業採択のプレゼンテーションは感動的で涙を流したというエピソードを紹介。「城西大学が熱心に気持ちを込めて、この高麗川の自然を復活させる行動を起こしたことを賞賛したい」と述べました。また、プロジェクトの顧問だった白幡晶学長は「素晴らしい景色に変貌し、感慨無量です。来年4月からは授業の中で、学生を総動員して掃除をすることを計画している。地域とつながった新しい大学の活動として力を



テープカット(右端が白幡学長)



ごみを拾いながら歩き初め

入れてやっていきたい」と語りました。

今回整備されたのは、多和目橋から多和田天神橋までの約700m区間。関係者代表によるテープカットの続き、参加者はごみを拾いながら、歩き初めをしました。

ニュース

安倍昭恵氏講演会

2016.10.26

「女性活躍社会に向けて」 「グローバル・レクチャー」 9人目の登壇

安倍晋三内閣総理大臣夫人、安倍昭恵氏を招いた講演会「女性活躍社会に向けて」が2016年10月26日、清光ホールで開かれました。講演は、水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズの一環で、安倍氏は9人目の登壇。ホールを埋めた地域の方々や教職員のほか、サテライト教室や東京紀尾井町キャンパス、城西国際大学の東金キャンパスでも学生たちが熱心に耳を傾けました。

安倍氏は1987年に安倍晋三氏と結婚。2011年の東日本大震災後に山口県下関市で無農薬のコメ作りを手掛け、2012年には東京・神田にこだわりの食材を使った居酒屋「UZU(うず)」を開店しました。このほか、ミャンマーの寺子屋への支援や女性のためのUZUの学校など教育や食の振興に力を入れています。

安倍氏は講演で、「第2の人生のスタート」として50歳で結婚25年目の2012年に開店した「UZU」に触れ、店名は、天照大神を天の岩屋戸から誘い出した天鈿女命に由来すると紹介。「女性たちが殻を破って伸び伸びと女性の素晴らしさを生かして社会で活動していくことが、本当の意味の天の岩屋戸開きになるのではな

いかと思います」と述べました。また、2度目の総理夫人については「権力の中枢には届かない声がいっぱいあることがわかりました。「家庭内野党」と言われることもあります。違う考え方の人たちの意見も主人に届けたいと思っています」と強調。「女性の活躍といっても男性に取って代わるのではなく、女性は女性でできることがたくさんあると思います」と結びました。



講演する安倍氏

ニュース

チカダ賞記念国際シンポジウム

2016.11.18

「生命の尊厳を表現するということ」

スウェーデン政府が生命の尊厳を表現する東アジアの詩人に贈呈しているチカダ賞にちなんで「第2回チカダ賞記念国際シンポジウム」が2016年11月18日、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開かれました。シンポジウムは、2014年6月7日の第1回に続く開催。海外を含めた歴代受賞者をはじめ、日本の著名な詩人の方々が登壇、「生命の尊厳を表現するということ」をテーマに論議を深めました。興味深い各セッションの議論と朗読に詩人や市民の方々、留学生を含む学生、教職員ら約160人が熱心に聴き入りました。



北島氏(中)と谷川俊太郎氏(右)の対談

チカダ賞は、スウェーデンの詩人でノーベル文学賞受賞者のハリ・マーティンソンの生誕100周年を記念して2004年に設立されました。賞の名前は、1953年に出版されたマーティンソンの詩集

「チカダ(“蟬”の意)」に由来します。第1回受賞者は詩人・評論家の宗左近氏、第2回受賞者は俳人の金子兜太氏、詩人でもある水田宗子先生は2013年に第6回受賞者となりました。



「詩と現実」の座談会の様子

主な登壇者は以下の方々でした。

- ・ラーシュ・ヴァリエ氏(前駐日スウェーデン大使・俳人)
- ・北島氏(中国・第7回受賞者・詩人)
- ・谷川俊太郎氏(詩人)
- ・文貞姫氏(韓国・第5回受賞者・詩人)
- ・高橋睦郎氏(詩人)
- ・イー・ニー氏(ベトナム・第8回受賞者・詩人)
- ・吉増剛造氏(詩人)

金子氏と楊牧氏(台湾・第9回受賞者・詩人)からは、ビデオメッセージをいただき、上映が行われました。

青柳所長特別講演会

2016.11.22

「自然・人間そして科学技術」

前文化庁長官で本学の高等人文学研究所の青柳正規特任所長の特別講演会「地域と文化」が2016年11月22日、清光ホールで開かれました=写真。青柳氏は6月15日、水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズとして「自然・人間そして科学技術」のタイトルで講演していただきました。テーマを替えたこの日の講演では、現代政策学部の学生や留学生、教職員約500人が熱心に聴講しました。

青柳所長はギリシャ・ローマ考古学の第一人者。国立西洋美術館館長や文化庁長官を歴任されました。青柳所長はこの日の講演で「日本は生産資本や人的資本、自然資本で測る一人当たりの豊かさはアメリカを上回って世界一だが、財政赤字と人口減少によって豊かさが萎む傾向にある」と説明しました。「充実した生活によって幸

せを感じるためには、文化を身近に感じながら、それを大切にすることを重要だ」と指摘。文化芸術の持つ創造性を生かして再生したり、発展したりしている海外や日本の都市などの例を挙げ、「地域文化の特長を確認し、それを見極める必要がある」と述べました。

最後に、青柳所長は2020年の東京オリンピックに向けて文化庁が、日本の津々浦々の祭りなどを集積するポータルサイトを作ることを紹介、「2020年後にはそれが文化的な生活をするレガシーになる。若い皆さんが、文化を盛り上げるオリンピックに参加してほしい」と呼びかけました。



ニュース

地域活性化シンポジウム 2016.10.21

「地域経済の活性化について」

大学院経済学研究科主催の第5回地域活性化シンポジウム「地域経済の活性化について」が2016年10月21日、2号館101教室で開かれました。

この日は、明治大学政治経済学部の池宮城秀正教授による「地方分権と地域経済の活性化」▽東洋大学国際地域学部の和田尚久教授による「観光振興による地域活性化」▽法政大学社会学部の関口浩教授による「地域経済の活性化—アメリカのケース—アメリカの学校区とその財政——」の講演が行われ、院生や経済学部生約250人が受講しました。

最初に本学の小林哲也教授が「地域の活性化は皆さんが社会に出た時に大きなポイントとなってくる。今日の講演を今後の勉強に生かしてほしい」と挨拶しました。講演の中で、池宮城教授は「地域経済の活性化には優位なものを促進する一方、不利なものを克服することが必要」と指摘。和田教授は「観光による地域活性化には、地域ストーリーをつくり情報発信ツールに乗せることと住民自身が内にこもらないで行動する必要がある」と述べました。最後に関口教授はアメリカでは学校区や州が教育に大きな財源を支出していることを挙げ、「他国を見る場合に日本と同じ見方をしなくてはならない」と結びました。



講演を行った3教授。右から池宮城教授、和田教授、関口教授

日本語スピーチコンテスト 2016.10.29

最優秀賞「スマホは日本を変えている」

第25回を迎えた日本語スピーチコンテストが2016年10月29日、開かれました。別科の主催で、本学の留学生5人を含む9カ国と1地域から来た在日3年未満の留学生15人が、日本での学習や暮らしの中で感じたことなどを7分以内で発表しました。

最優秀賞には、「スマホは日本を変えている」と題して話したモンゴル出身のバトゥナサン・ガルバドゥラハさん＝東京大学教養学部＝が選ばれました。



お知らせ

ハラル認定化粧品発売

自然派化粧品「メラティ」
薬学部など産学官連携で製品化

本学薬学部が埼玉県化粧品会社と協力して「産学官」連携で進めてきたハラル認定化粧品がこのほど、発売になりました。商品名は、インドネシア語でジャスミンの意味の「メラティ」で、



「メラティ」(左からメイクアップリムーバー、ホワイトジェル、UVケアクリーム)

メイクアップ落としと化粧水を合わせた「メイクアップリムーバー」、化粧水・乳液・美容液の3機能を持つジェルクリーム「ホワイトジェル」、日焼け止め用クリーム「UVケアクリーム」の3品で、株式会社「グレート」(東京都千代田区)が総販売元となりました。

メラティは産学官連携のもと、埼玉県内に工場を持つ石田化粧品株式会社(東京都台東区)が製造しました。イスラムで禁止されている豚由来成分やアルコールを一切排除した処方で作られた自然派化粧品で、宗教法人日本イスラーム文化センターからハラル認証を取得し、埼玉県の「ハラル化粧品原材料等研究開発コンソーシアム」発のハラル認定化粧品となりました。

訪日観光客が多く足を運ぶドラッグストアやホテルのアメニティなど国内市場を中心に、ムスリムが多い東南アジアや中東諸国などへの販路拡大を目指していく予定だそうです。

展覧会

企画展 2016.11.3~12.3

「水田三喜男コレクション
—幕末・近代の書—」

感じてください、時代の息吹を——。水田美術館で11月3日から12月3日まで企画展「水田三喜男コレクション—幕末・近代の書—」が開かれました。創立50周年を記念したもので、多くの地域の方々が貴重な資料を鑑賞しました。

創立者の水田三喜男の郷里である鴨川にある鴨川市郷土資料館には、浮世絵以外の水田の蒐集となるコレクションが所蔵されています。今回はこのコレクションから、勝海舟や渡辺華山、大久保利通といった幕末から明治・大正期に活躍した高名な人物らが手掛けたとされる遺墨28点と関連資料6点が展示されました。幕末期を中心とする江戸時代の漢詩は、概して愛国精神にあふれた主題が多くある一方、明治・大正期は、作者の内省描写や時勢を顧みでの個人的な心情が表現されており、時代によって内容が異なるのが特徴。水田自身の蒐集傾向の変化もうかがわせる展示会となりました。



シリーズ

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は四日市印刷工業代表取締役社長の山口史高さん(45)を三重県四日市市の本社に訪ねました。



「個々の価値観」を受け入れ
認められる人間力を

四日市印刷工業 代表取締役社長 山口 史高さん (1993年 経済学部卒)

——どんな学生生活でしたか。

「思い出深いのはサークル活動です。高校時代に引き続き、バスケットボールのサークルに入りましたが、なぜかスキーの上級者が多くて、スキーのほうに夢になりました。スポーツに自信があった自分でしたが、初スキーで全く滑れず悔しい思いをしました。そこから火がつき、冬に入ると毎週のように仲間とスキー場に行っていました。もともと凝り性で、朝一からナイターまで筋肉痛をもろともせず、一日中滑っていました。群馬や新潟のスキー場はほとんど行ったと思います」

——ご実家は老舗の印刷会社ですね。

「元々は東海地方にあるお土産用のうちわ生産業でしたが、明治10年に印刷業に業態変革をして来年で140年目になります。インターネットを主にした情報発信の時代になって、紙の情報媒体は縮小する傾向にあります。平成初期までは弊社も地場の広告物中心の仕事をお願いしていましたが、現在はお菓子、化粧品系の包装にかかわるラベルや包装紙、箱などを企画・製造するパッケージ製作会社になりました。印刷の中でも特化したサービスになったため、全国から引き合いをいただくことも多くなりました。5年前には東京営業所を立ち上げ、順調に実績を伸ばしつつあります。5代目にあたる私は、受け継いだ事業を時代の変化にあわせて、印刷にこだわらず、お客様、社会そして社員が笑顔になれるサービス、商品を提供することが使命と考えています」

——これまでの転機は。

「東京事業所の立ち上げでしょうか。大学卒業後、埼玉県内の食品フィルム印刷業界で2年半、修行しました。その際に知人を通じて知り合った東京のお客様から、弊社が注文を受けるようになりました。次第に関東地方からの引き合いも増えて、東京事業所の設立に踏み切りました。新規開拓の可能性は高いと感じていましたが、期待していたほど簡単に数字が上がらず、精神的、肉体的にかなり辛い時期が続きました。それでも小さい仕事やチャンスを大切に結果、現在は新規顧客も増えて売上、実績も堅実に伸びています。スタッフの増員も考える時期にまでなりました。ちなみに現地にいるスタッフは城西大学出身です。私生活では、家内と結婚したことです。知り合ったのは大学時代、家内は城西短期大学の学生でした。2年の遠距離交際を経て、27歳の時に結婚しました。城西大学に行っていなければ、

今の自分、楽しく過ごせる家族もないわけで、感謝の思いでいっぱいです」

——経営理念と社訓を唱和して1日が始まるそうですね。

「社風の中で受け継がれ、大切にしてきたことは「和・信用」です。これから入社する人たちにもわかりやすく伝えられるように、私の代で経営理念・社訓を作りました。同時にスタッフが、四日市印刷工業として社員の心掛けを『行動指針』としてまとめてくれました。経営理念・社訓・行動指針は毎朝の朝礼で全員唱和して、『変えてはいけないこと』『変わらなければいけないこと』を判断する指針として活用しています」

——山口社長が目指す「プロ集団」とは。

「お客様が求めている要望のプラス・アルファ以上のものを提供できて、『ああ、こんな作ってくれたんだ』『こままでしてくれたんだ』というところまで提案するのが、私たちの存在価値だと思います。『お客様に笑顔を!』をモットーにスタッフとレベルアップを続けることを大切にしています」

——座右の銘、もしくは好きな言葉を教えてください。

「『継続は力なり』です。コツコツと積み重ねるほど、強い武器はないと信じています。基本を大事にすることは、スポーツや仕事を通じて学び、成功体験を積んだことが大きいと思います」

——後輩へのメッセージをいただけますか。

「私にとって大学生活は、人生の中でいちばん自由な時間。幸せな思い出や体験が多く、生涯の中でその一番はきっと変わらないと思います。学生同士の付き合いだけでなく、いろいろな体験を通じて、たくさんの出会いを大切にしてほしいです。大学時代から『個々の価値観』の違いを受け入れられ、認められる人間力を養っていただきたい。社会人になってから必ず役立つときが訪れます。頑張ってください」

■四日市印刷工業

明治10年に東海地方日永宿で創業した「山口堂」が前身。お伊勢参りの土産物・日永うちわ作りで培った多色刷りの技術を生かし、伊勢茶や日本酒、生糸など地場産品のラベル作りに進出。昭和19年に現社名に変更した。現在は東海地区トップクラスの印刷会社として、食品パッケージのデザイン企画、印刷、加工などを幅広く手掛ける。伊勢名産の「赤福」の包装紙も同社製。従業員70人。三重県四日市市本郷町1-35。TEL:059-331-2111。

シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

意識を高め合うことで楽器がどんどん上達 軽音楽研究会 部長 久保田三稀さん(経済学部3年)

自分たちの好きな曲を自分たちの手によって演奏する軽音楽研究会。1年から4年生まで約80人で活動している。

休日の学内や学外で行う年8回のライブのほか、毎週火曜日の昼休みに行う部会での部員交流がある。ライブ

は、主に1年生主体の「下克上ライブ」や、高麗祭での「文化祭ライブ」、クリスマスの時期に行われる「クリコン」、4年生を送り出す「追いコン」があり、いずれも一般にオープンしている。

部員の一人は「周りにたくさんライバルがいるため、意識を高め合うことで楽器がどんどん上達する」と会の魅力を語る。部長の



右端が部長の久保田三稀さん

久保田三稀さん(経済学部3年)は「音楽を通して学年、学部にかかわらず交流できる。新しいジャンルの音楽を知ることでもできる」と会をアピール。「部員が楽しんでいる姿を見たときにやりがいを感じる」と言う。随時部員を募集している。また、Twitterなどでライブの写真や動画、タイムテーブルなども公開している。

取材:大木沙耶(理学部化学科1年)

会員同士のコミュニケーションを大切に 理学部数学科学生会 次期会長 高津佳祐さん(2年)

学科を盛り上げる様々な活動をしているのが、理学部数学科学生会だ。男9人、女7人の計16人のメンバーが、定期総



中央列の左から2人目が現会長の吉岡康平さん

会のパンフレット制作や役員紹介、決算報告、ビラ作りをはじめ、講演会や親睦会、球技大会の主催・運営などを行っている。「参加する人を楽しんでもらいたい」という親睦会では、バドミントンなどを催している。今年の高麗祭では大判焼きの販売をし、長蛇の列で大盛況だった。

しかし、16人で多くの行事をこなすのは容易ではないという。次期会長の高津佳祐さん(2年)は「人数が少ないからこそ、会員同士のコミュニケーションを大切にしていきたい」と話す。活動をしていると、OBやOGの方々と知り合うことで、就職など個人的な相談まで幅広くアドバイスもらえることも多いという。「楽しく、仲良く学生生活を送りましょう。ぜひ行事に参加をお願いします」。高津佳祐さんからのメッセージだ。

取材:長尾航(経営学部)

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています
jukoho1@gmail.com

強い絆で仲間とともに成長しあう

少林寺拳法部 主将 田中稔也さん(現代政策学部3年)



右から2番目が主将の田中稔也さん

実は日本で創始した武術「少林寺拳法」を極める少林寺拳法部。部員は少ないが、仲良く協力し合って部活を盛り上げている。

月、水、木曜日の午後5時から7時、土曜日は午後1時半から3時半まで活動している。昇格試験の練習や年に4、5回行われる大会に向けた練習を行っている。大会は、1人で行う型と2人で行う型に分けられ、技のキレを競う。

小島拓郎さん(理学部2年)は「昇格試験に向けた練習では新しい技も覚えるため、達成感がある」と少林寺拳法の魅力を説明。主将の田中稔也さん(現代政策学部3年)は「武道団体と連携することが多く、相互の人間関係が強まった。仲良く協力し合う我が部活の強みを生かしながら、大会に向けて頑張っていきたい」と前向きに語っている。絆が強く仲間とともに成長しあう少林寺拳法部。少しでも興味があるならば、少林寺拳法部の門をたたいてみてはどうだろうか。

取材:堀越祐貴(経営学部1年)

給食経営につながる実践的な勉強も DHA「食」テーマの薬学部医療栄養学科サークル

「食」をテーマにした薬学部医療栄養学科のサークルであるDHA(Diet healthy associationの略)。1~3学年の80人ほどが所属しており、イベントに向けて随時活動している。

主な活動は三つ。一つは、大学付近の畑を借りて野菜を栽培、収穫している。主にトマト、ナス、ピーマン、さつまいも。さつまいもは「安納芋」と「太白」を育てている。太白は育てるのが難しく、市場にはあまり出回っていない珍しい芋だ。次が城山保育園で行っている「食育」。毎年1回、職員の方々の協力のもと、園児たちに教えている。今年の手洗いうがいの劇と〇×クイズを行ったという。社会に出てから子どもに接することも多い学科なので、将来にも役立つ活動だ。

最後は高麗祭での料理の提供。定番は埼玉県日高市の郷土料理で白みそが入っている「高麗鍋」。醤油などの調味料の量を毎年、試行

錯誤しながら作っているのが、味わいに変化があるそうだ。もう一つは、毎年違うものを提供している。今年のみたらしとあんこの団子を作った。仕入れから価格設定、作り方まで学生自らが考えるため、給食経営のマネジメントにつながり実践的な勉強になる。

学年の垣根を越えて協力し合って活動しているため、和気あいあいとした雰囲気だ。

取材:片岡優花(経済学部1年)



後列右端が代表の佐藤菜摘さん

図書館だより

第10回ライブラリーラウンジ開催——「これだからおもしろい! スポーツの魅力」

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における大学連携の活動として10月19日、図書館5階において第10回ライブラリーラウンジ「これだからおもしろい! スポーツの魅力」を開催しました。リオデジャネイロオリンピック4×400mリレー日本代表に選ばれた経営学部4年、佐藤拳太郎さんをゲストに迎え、体育系クラブ・サークル所属の学生のほか、健康市民大学生、教職員、一般の方など66人が参加しました。学生アドバイザーから佐藤

さんへのインタビューでは、400m走の魅力やオリンピック会場でのエピソードなどをお話いただきました=写真。また、会場からは、試合へのモチベーションの上げ方などアスリートならではの質問も多くありました。アンケートでは「競技に対する意識の高さや考え方を学ぶことができた」「佐藤選手だけでなくソフトボール部、水泳部、アスリートクラブなど普段接点のな



い人たちからも話が聞けて良かった」などの感想が寄せられ、改めてスポーツの魅力を感じられる開催となりました。



「ビブリオバトル2016 in高麗祭」が理事長賞を受賞

高麗祭最終日の11月5日、野外ステージにおいて図書館学生アドバイザー主催の「ビブリオバトル2016 in 高麗祭」を開催し、ゼミ・学科・研究室代表の6人が出場しました。観客席には学生、教職員のほか高麗祭に訪れた一般の方も多く集まり、城西生の熱戦をご覧いただきました。会場の観戦者101人の投票により、薬学部4年の田中祐乃介さん=写真①=が発表した「夜は短し歩けよ乙女」がチャンプ本に選ばれました。学生アド

バイザー主催による高麗祭ビブリオバトルも4回目を数え、今年度は今までの努力が実り「高麗祭理事長賞」を受賞することができました=写真②。歴代の学生アドバイザーが蒔いた種は確実に育っています。

翌日の11月6日には、坂戸市立図書館において開催された「秋の図書館まつりビブリオバトル坂戸図書館」に本学の学生2人が出場し、薬学部4年の高橋佑太さんの発表本がチャンプに選ばれました。



全国大学ビブリオバトル全国大会に出場決定

「全国大学ビブリオバトル2016城西大学予選会」を10月7日に開催し、20名(4ゲーム)が熱戦を繰り広げ合計136人の観戦者が投票に参加しました。予選会のチャンプ4人のうち3人は、11月9日パシフィコ横浜で開催された「関東地区決戦関東Cブロック」に出場しました。他大学の学生との熱戦の結果、薬学部4年の高橋佑太さんが発表した『猫を抱いて像

と泳ぐ』が見事チャンプ本となり、12月18日京都大学で開催される「全国大学ビブリオバトル2016～京都決戦～」への出場が決まりました=写真。11月26日には、紀伊國屋書店本店で開催の「関東地区決戦関東Dブロック」に予選会チャンプ1人が出場し、熱戦を繰り広げました。



エリア紹介

坂戸市

イメージキャラクター決定

市制施行40周年を記念して、また、坂戸市のシティプロモーションのさらなる強化の一環として、誰からも愛される新たなイメージキャラクター「さかろん」が誕生しました。

「さかろん」は、小・中学生及び高校生(市内在住・在学)から応募のあった379点から市民投票により決定しました。

今後、坂戸市のイメージキャラクターとして

様々な形で皆様の前に登場しますので、応援してください。

「さかろん」プロフィール

【性別】女の子。【ルックス】おしゃれ大好き「さかろん」は、耳や服に坂戸市の木「桜」を、首輪や腕輪に坂戸市のブランド野菜「ルーコラ」をしっぽに「すいおう」を付けています。【性格】やさしい。【趣味】お買い物、お花見、お散歩。【好きな食べ物】「すいおう」のサンドウィッチ……野菜を乾燥して食べるのが好き。「すいおう」は、市内直売所や一部スーパーの地産地消コーナーで売っているよ(夏季限定)。食べてみてね。



本学学生と記念撮影する「さかろん」=高麗川ふるさと遊歩道で11月4日

鶴ヶ島市

鶴ヶ島から全国へ

～鶴ヶ島市ふるさと納税の取り組み～

2014年9月、市内産業の活性化やシティプロモーションの推進などを目的として、ふるさと納税の返礼品をリニューアルしました。13年度3万円だった寄附受入額が、14年度は約1億3500万円、15年度は約2億7500万円に伸び、2年連続埼玉県内1位の寄附受

入額となりました。

ふるさと納税の返礼品として肉や海産物などが多い中、特に目立った特産品のない鶴ヶ島市では市内事業者製品を記念品として提供していただくとともに、季節に応じた限定品や他では手に入らないという付加価値を持った記念品の提供を行いました。

特に人気があるのは鉄道模型で寄附受入額の5割以上を占めていますが、裏を返すと鉄道模型以外の記念品で1億数千万円の寄附

を受け入れていることとなります。鉄道模型で注目を浴びた当市のふるさと納税ですが、そこから他の記念品を気に入っていただきリピーターが増えている記念品もあります。小さなまちの小さな店の商品が、全国の皆様に愛される記念品に成長しています。



東武線沿線情報

東武鉄道×東武百貨店池袋本店 合同企画「池袋東武グルメきっぷ」を発売

「池袋東武グルメきっぷ」は、東上線・越生線が1日乗り降り自由となる「東上線1日フリー乗車券」と池袋本店のレストラン街「スパイス」の店舗でのお食事券がセットになった、たいへん便利でお得な企画乗車券です。東武鉄道と東武百貨店の連携による初の企画乗車券となります。

お食事券のご利用対象店舗は、池袋本店のレストラン街「スパイス」全46店舗のうち16店舗の中から1店舗を選んでいただき、各店舗の限定メニューをお楽しみいただけます。この機会に「池袋東武グルメきっぷ」で、東上線の観光スポット巡りやお買い物などをお楽しみいただき沿線の魅力をご堪能ください。

お求めは各駅窓口どうぞ(ただし、寄居、越生を除く)。

- ・発売期間:2016年12月1日(木)～2017年3月31日(金)
- ・有効期間:2017年3月31日(金)までのうち1日間有効
- ※「東上線1日フリー乗車券」とお食事券は、それぞれ別日にお使いいただくことも可能です。
- ・発売額:大人2500円(小児運賃は設定なし)



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
http://www.josai.ac.jp